

JAB RL363:2012 第2版に対するコメント

	コメント 提出者 (敬称略)	条項 No.	行 No.	コメン ト区分	コメント内容	提案	JAB 事務局対応案 (凡例 ○：採用、△：修正等、×：不採用)
1	鈴木英伸	5.6 測 定のト レーサ ビリテ イ		T	その使用頻度、維持すべき 測定能力を考慮して適切 に設定しなければならない。 ・・・空間線量率測定器は、 校正値の安定性を確認す るために JIS Z 4511 付属 書2に従って確認校正を実 施することが望ましい。	備考の追記 ；適切に設定 設定方法は、J I S Q 1 0 0 1 2 による確認周期を参考にすると良 い。	不採用 × JIS Q 10012 では、計量確認の間隔を定める際 の参考文献として OIML D10 を引用してい る。このため、OIML D10 は、ILAC との共同 発行文書であり(ILAC G24)、そこには校正の 間隔を定める際に考慮すべき事項がガイドラ インとして規定されている。したがって、 ISO10012 を引用することは二重引用になる ので避けなければならない。一方、OIML D10 では、一般論として校正の周期を定める際に 考慮すべき要件と管理方法が定められている ものの、放射能・放射線測定に則した測定器 の校正周期を定めるような個別例は提示され ていない。他方、現状の本文では、1年に1回 測定器の校正を実施することを原則としてお り、それ以外の周期を設定する場合に測定器 の使用頻度、維持すべき測定能力を考慮する ことが言及されており、OIML D10 を引用し なくとも同様の効果が期待できる。

注：コメント区分には、必ず「G（全般に関するコメント）」、「T（技術的コメント）」、「E（編集上のコメント）」又は「Q（質問）」の区分をご記入ください。